

連載：原点

チーバくんの口元から足首へ

安房高等学校 小池 直哉

安房高等学校に初任者として着任してから4ヶ月が経とうとしています。安房高校の石井校長から初めて電話をいただいた日を今でも鮮明に覚えています。私は市川市の高校で臨時的任用講師として勤務していました。授業が終わり、職員室に戻ってスマホを開いたときに、館山市からの着信履歴があり、すぐに電話をかけ直し、千葉県立安房高等学校に採用していただいたと伺いました。市川市から館山市までは110kmほど離れており、採用の連絡をいただく数日前に数学Iの三角比の授業で求めた、勤務校から富士山までの直線距離が108kmほどだったため、富士山よりも遠い場所に転勤する（実際は勤務校から館山市までの道路距離が110kmで直線距離は85kmほど）という話題で持ちきりだったことを今でも昨日のこのように覚えています。昨年度までは東京スカイツリー越しに見えていた富士山も、今年度は館山湾から見ていることに不思議な感情を抱きます。館山という初めての土地で慣れない環境で、不安だらけの日々を送っていますが、同僚や生徒、地域の方々にも恵まれ、充実した日々を送れていると感じています。

私の地元は千葉県ではなく、生まれも育ちも福島県です。大学生活を千葉で送ったことをきっかけに、千葉県の教員採用選考を受けることとなりました。最初の2年間は採用選考で思うような結果が出ず、2年間葛南地区の高等学校で臨時的任用講師として勤務させていただきました。初めて教壇に立ったときの緊張は今でも覚えています。その気持ちが私の教員人生の原点となるものだと感じています。生徒にとっては初任者であろうが講師であろうが同じ先生だから、とにかく自分ができることを一生懸命やりなさい。これは一校目でお世話になった教頭先生からいただいた言葉です。私自身、右も左もわからない状態で教壇に立つ毎日でしたが、その言葉をいただいたおかげで、生徒のために今自分ができることをやろうと思ったことを今でも鮮明に覚えています。今も私の授業で生徒を満足させることができているのか、生徒のためになる指導を行えているのかなど、日々悩みが募るばかりですが、それは私が自分なりに生徒のために何ができるかを考えている結果であることは間違いないので、この気持ちを大切に、自分らしさを忘れずに生徒と接していきたいと考えております。

私が教員として勤務をして感じたことの1つが、学校現場の面白さです。学校の中において同じ日常などなく、教員とは生徒の変化や成長を肌で感じるができる非常に魅力ある職業だと感じています。授業や部活動において日々の生徒の成長を感じることができたり、授業等の反応もクラスや生徒によって変わってきたり、自分の行動に対してリアルタイムでリアクションが返ってくるため、日々の授業や部活動等の様々な場面において工夫のしがいがある職業だと感じています。その中で最も重要だと思うことが、生徒一人一人に合わせた適切な指導を行うことです。生徒一人一人を観察してみても、日々心情が変化し、それに応じて適切な声かけを行うことの難しさや、常に生徒の様子を観察し、変化に気づくことの重要さを感じさせられています。また、先生方においても学生時代や社会人時代に様々な経験をされている方が多く、面白い職場だと感じたのが率直な感想です。企業での経験や海外留学、海外ボランティア

アなど様々な経験をされている方がいるため、職員室でお話を伺うだけでも非常にためになる反面、私自身の経験値の少なさを痛感させられ、嫉妬してしまいますが、他の先生方の経験を参考にしながらも自分らしい自分にしかできない授業や指導を行っていきたいと考えています。生徒も同様に他人と自分を比較し、妬み、嫉み、自分と違うものを否定し、集団の中で同調圧力が生じるのを間近で感じてきました。しかし、この変化が早く大きい社会の中で生きていくために必要なものは個性であり、人と違う見方や能力だと考えています。生徒が出す意見や考えに間違いはなく、それを教員が生かすことにより、自分の考えを持ち、人に伝えることができるようになるのではないかと考えています。そのような人材を教科指導や部活動指導を通じて育成していくのが教員の使命であると考えているので、まだまだ未熟な私ですが、教員として、高い志を持って教育活動に携わっていきたいです。

最後に、数学的な内容が少なく、現場での感想が多くなってしまいましたが、私の原点というものを改めて考えてみると、家族や友人、学生時代に関わった先生方や講師時代にお世話になった先生方など多くの方に支えられ、今教壇に立っている私がいると感じています。ようやく教員生活のスタートラインに立てた私にとっては、今が「原点」になるのではないのでしょうか。この気持ちを忘れずに、1日1日を過ごし、生徒を支え、共に成長していきたいです。

今年度、正規採用されてから1つ楽しみが増えました。それは生徒の3年間の成長を見ることです。昨年度までは、1年で転勤しなければならないため、生徒の成長を最後まで見届けられない悲しさがありましたが、今年度からは生徒の成長の過程に、3年間携われる喜びを感じながら、充実した日々を送っていきたいと考えています。